



2011年12月5日
民主党プレス民主編集部
〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話 03-3595-9988(代表)
press@dpj.or.jp http://www.dpj.or.jp



●お問合せ・購読申込などは
民主党プレス民主編集部または

【民主党小金井支部】
支部長：西岡 真一郎

〒184-0004
小金井市本町1-6-2
TEL:042-386-5771/FAX:042-386-5773

ごみ問題解決のため苦渋の決断

— 民主党小金井支部、稲葉孝彦氏への支部支援を機関決定 —



＝ 小金井市役所本庁舎前の横断幕

■ この間の経緯と民主党議員団の取り組み

マスコミにも大きく取り上げられ、全国的に注目が集まっている小金井市のごみ処理問題ですが、多摩地域の自治体に多大なご迷惑をおかけし広域支援に頼っている現状から一刻も早く脱却し、ごみ処理方針を確立させて、市民生活を守ることが喫緊の課題である事は言うまでもありません。この間、市政混乱の責任をとる形で前市長が辞職し、12月18日には小金井市長選挙が再び行われることとなりました。

民主党小金井支部は、ごみ問題の解決のためには、より多くの市民が大同団結でき、議会をもまとめている適任の市長候補を擁立することに全力を挙げて参りました。残念ながら、最善と考えた候補本人が最終的に断念されてしまいました。そこで、現在、ごみ処理問題の解決に意欲を示している4人の予定者の中で、ごみ問題解決に最も可能性の高い人物として、民主党

小金井支部への支援要請を行った稲葉氏を支援することに決定致しました。これは、これまでの経過から考えれば、重く厳しい決断です。しかし、ごみ問題を解決し、市民生活を守るものが何よ

りもの最優先課題であるならば、今は、小異を捨て去ることも止む無しの判断に達しました。

■ 民主党小金井支部の主張

稲葉氏が、ごみ行政の困難さや経過を熟知しているとともに、ごみ問題への解決の道筋を模索していたこと、多摩地域の自治体首長や東京都等の行政機関と培ってきた人脈があること、困難であった武蔵小金井駅南口再開発や東小金井駅北口区画整理を大きく前進させた経験があること、ねばり強さやあきらめない精神力は、ごみ問題への解決に必要な要素であるとも認識出来ます。

3期12年務めながらも、解決していない点は大いに反省すべきこととは思いますが、この危機と困難を乗り越え、確実に解決するためには、誰が適任なのかという視点が重要であり、慎重な見極めが求められます。

そこで、当面の小金井市政と小金井市の最大の課題である可燃ごみの処理に関し、民主党小金井支部は、小金井市の危機と困難を乗り越えていくため、稲葉氏と政策合意文書を取り交わした上で、支部支援を決定いたしました(詳細裏面参照)。

市民生活を守るため、ごみ問題については、稲葉孝彦候補予定者の手腕に期待し、民主党小金井支部としても、所属議員団が結束し、東京都等からの様々な支援と理解を得つつ、早期の解決に向けて、あらゆる方策を検討し、全力で取り組む決意です。

＝ 民主党小金井支部議員団



顧問
菅直人
(衆議院議員)



支部長
西岡真一郎
(東京都議会議員)



幹事長
村山ひでき
(小金井市議会議員)



幹事
宮崎晴光
(小金井市議会議員)



幹事
鈴木しげお
(小金井市議会議員)



稲葉孝彦氏 略歴

昭和19年11月26日、旧満州牡丹江省生まれ。38年、銚子市立銚子高校卒業。42年、日本大学法学部法律学科卒業。48年、小金井市に転入会社経営。60年、小金井市議会議員選挙に初当選。以来4期14年、予算決算、総務、議会運営委員長等要職を歴任。
平成11年 小金井市長選挙初当選、以来3期。

【主な職歴】

全国市長会評議員、東京都市長会監事、東京都町村職員共済組合理事長、昭和病院組合理事会会長 等を歴任。

民主党小金井支部は、12月18日執行予定の小金井市長選挙において、

稲葉孝彦氏への支援を機関決定

民主党小金井支部は、12月18日執行予定の小金井市長選挙において、稲葉孝彦氏を支援することを12月3日機関決定し、発表しました。

それを受けて稲葉氏は次のようにこたえました。

「財政再建も街づくりも小金井市の大きな課題でしたが、私が市長の時の12年間で一定の成果を上げる事が出来たと思っております。

しかし、まだまだ道半ばです。もちろん、今般のごみ処理問題は喫緊の課題です。これまで積み上げてきた他市との信頼関係を生かし、解決に向けて全力で取り組みます。

私の市政に対する熱い思いはいささかも変わることはありません。今回の決意に対し、民主党小金井支部の皆さんにも真剣にご協議いただき、ごみ処理問題について合意をさせていただきます（下記合意事項参照）。

これからも私心を捨て、残された課題と新たな課題解決に取り組むとともに『信頼の小金井』を民主党小金井支部の皆さんや、市民の皆さんとともに作ってまいります。」

【民主党小金井支部と稲葉孝彦氏との合意事項】

1. 支部としては、政策合意に関し、ごみ問題への取り組みに絞ることとし、他の政策課題等については是々非々で臨む。
2. 稲葉孝彦氏はごみ処理問題への取り組みについて、平成25年3月までに実現可能なごみ処理に向けての一定の方針を市民に示し、平成25年内の早い時期に最終的な処理方針を確立する。この取り組みに関し、職を賭して取り組むことを明言する。

多摩地域の自治体および周辺住民の皆様へ感謝申し上げます

平成23年4月の市長選で当選した前市長は、事実誤認により「4年間のごみ処理費用の20億円はムダ使い」と主張しました。市長就任後の6月定例市議会で、この問題を市議会各会派が追及した結果、前市長は「ムダ使い」の主張を撤回、謝罪しました。市議会は前市長に対し「市長の市長選挙公報等におけるごみ処理問題での主張に対し猛省を促し、早期に安定的なごみ処理体制の確立を求める決議」を全会一致で可決し、市長と行政が一体で課題解決にあたる事を内外に示しました。

11月の市長辞職後、多摩地域の周辺自治体・団体の皆様から、危機的状況へのご理解を賜り、可燃ごみの受け入れ・検討をいただいていることに対し、心より厚く感謝を申し上げます。

今後は、市民生活の基盤でもあるごみ処理の安定的な処理体制の構築に向けて行政とともに全力で危機的状況の解消に向けた努力を続ける所存です。

民主党小金井支部議員団一同

今年度の可燃ごみ処理にメド

各自治体が受け入れ予定

前市長が4月の市長選挙で、可燃ごみの処理費を「4年間で20億円のムダ使い」と主張したことから、小金井市の可燃ごみを広域支援により受け入れている多摩地区周辺の自治体・団体の反発を買う事態となりました。そして、自治体の基本的な責務であるごみ処理を収集停止寸前の事態にまで追い込んだことの責任を取り、前市長は就任後わずか6カ月で辞職しました。

可燃ごみ処理について、平成23年度当初からご契約いただいていたのは、多摩川衛生組合（稲城、狛江、府中、国立の4市で構成）の年間8,000トンのみで、年間発生量13,500トン全量の処理が出来ない状況でした。前市長辞職後も広域支援の新たな受け入れ先が決まらない状況が続いていましたが、11月16日に多摩川衛生組合が1,000トン、11月30日に国分寺市が1,200トン、12月2日には日野市が800トンを受け入れていただくことにより、当面の危機は脱することができました。

新聞報道等で受け入れを表明したとする団体も、施設周辺住民への説明と十分な理解が必要のために、現時点では正式な契約には至っていないため、依然として年間発生量全量の受け入れ先が決まらない厳しい状況が続いています。

小金井市の可燃ごみ受け入れ先一覧 (12月2日現在)

受け入れ先	契約処分量	契約日
多摩川衛生組合	8,000トン	4月1日
多摩川衛生組合(追加支援分)	1,000トン	11月16日
国分寺市	1,200トン	11月30日
日野市	800トン	12月2日
合計処理量	11,000トン	
追加支援が必要な処分量	2,500トン	

※現在、上記以外に多摩地域の4団体に支援をお願いし、交渉中です